令和８年度　第２回金沢市地球温暖化対策推進協議会　議事要旨

■日　　時　　令和８年 11 月２日（月）　14:00～15:30

■場　　所　　金沢市役所第二本庁舎　２階　2203 会議室

■出 席 者　　（順不同、敬称略）

委員	市山　　勉	金沢商工会議所環境委員会副委員長
	乙村　恵子	金沢エコライフくらぶ
	児玉　昭雄	金沢大学教授
	円井　基史	金沢工業大学教授
	宮井　利之	金沢エコ推進事業者ネットワーク代表運営委員
	能木場 由紀子	金沢市校下婦人会連絡協議会会長
	山根　克巳	北陸電力株式会社石川支店総務部長
	橘　　泰至	市民（公募）
	山田　　瞳	市民（公募）
※欠　席	齋藤　　毅	金沢大学講師
	神　　和成	石川県木造住宅協会副会長

事務局	川端　淑愛	金沢市環境局長	
	宮田　久美子	金沢市環境局ゼロカーボンシティ推進課長	
	堤　　宏平	同	課長補佐
	坂本　秋子	同	課企画庶務係長
	畑　　誠人	同	温暖化対策係長
	相川　加織	同	主査
	奥谷　博考	同	主査

■会議次第

１．開会

２．議事

（１）審議事項　・金沢市地球温暖化対策実行計画【改訂版】（骨子案）

（２）報告事項　・再生可能エネルギー導入量（2025 年度実績）

・「金沢市地球温暖化対策実行計画」の点検・評価

３．閉会

１.開会

（事務局）

・ただいまから令和８年度第２回金沢市地球温暖化対策推進協議会を開催する。
開会にあたり、川端環境局長からご挨拶申し上げる。

（環境局長）

・本委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただき感謝申し上げる。日頃から本市の環境行政へのご理解とご協力に感謝する。

・気象庁の発表によれば、今年の夏は平年を上回る高温となり、最高気温が 40 度を超える日が新たに「酷暑日」として制定され、全国 36 地点で記録された。
・また、線状降水帯による集中豪雨も多発し、各地で甚大な浸水被害が発生するなど、地球温暖化による自然災害の影響は深刻化している。
・環境問題はあらゆる事業活動によるものという認識のもと、これまで以上に市民や事業者の環境意識を高めたい。
・本日は地球温暖化対策実行計画の改定に関する審議と報告事項について、忌憚のないご意見を頂きたい。

２．議事

（１）審議事項　・金沢市地球温暖化対策実行計画【改訂版】（骨子案）

（事務局）資料１をもとに説明

（委員）
・全体的には特にない。14 ページの個別施策について、J-クレジットや非化石証書などで CO2 の削減不足をクレジットで補う方針か。

（事務局）
・金沢市の事務事業において、削減不足が生じた場合は J-クレジット等で補うことを検討している。購入するだけではなく、市の事業で創出することも検討していきたい。

（委員）
・購入する場合、必要となる額はどの程度なのか参考情報があれば教えていただきたい。

（事務局）
・詳細な算定はしてないが、現状不足する分を購入する場合は億単位となると想定している。まずは、創エネや省エネに関する施策を実施したうえで、2030 年、2035 年、2040 年などの節目の目標を確認しながら検討していきたい。

（委員）
・11 ページの図 7 の森林吸収量について、2030 年と比較して 2050 年では吸収量が増えているが、森林自体が増えるということか。

（事務局）
・2035 年や 2040 年の数値は、国が全国的に吸収量を増やす方針であることから、それを参考に、金沢市の数字を積算している。2050 年は国の資料でも精緻なものがないため、排出量と吸収量が相殺されるイメージで作成している。金沢市で森林面積を増やすことは難しいが、適切に維持管理することで単位当たりの吸収効率を高めることで吸収量を増やしていくことを想定している。

（会長）
・屋上緑化などの施策の話もあったかと思うが、そういったものも含めてということか。

（事務局）
・ご認識のとおりである。

（委員）
・基本方針６の吸収策に関連し、外国から木材を輸入するというものではなく、木材等の地産地消をうまく活用してもらいたい。
・基本方針７、自然災害への対応について、近年豪雨災害が増えている。太陽光発電設備は設置すると 20 年から 30 年使えるため、一時的な豪雨の影響で使えなくなるともったいない。全国的にも水没などの事例が出ていることを考慮すると、重点施策に設定しても良いのではないかと思う。

（事務局）
・木材の活用についても地産地消は重要な視点であり、しっかり取り組んでいきたい。
・事前災害の激甚化への対応については、既に土木局等において防災対策を重点強化している事項であるため、ご理解いただきたい。

（会長）
・太陽光に関する災害対応については、基本方針１にあわせて記載した方が分かりやすい。
・重点施策については、予算も必要かと思うが、骨子案が定まった後に予算を要求していくことになるのか。

（事務局）
・改定後の計画をもとに予算要求をしていくこととなる。予算が無くてもできることもあるため、そういったものから取り組んでいきたい。

（委員）
・今年は猛暑日が多かった。高齢者世帯で家に一人でいる場合も、我慢せずにエアコン使いながら何とか乗り切った。
・今後の「快適かつ持続可能な脱炭素型ライフスタイル」の啓発はどの様に行うのか。

（事務局）
・我慢しなければならないといったマイナスの意識もあるようだが、効率の良い家電への買い替えや、健康のためにも歩くといった前向きな温暖化対策を啓発していきたい。
・快適な生活との両立を考えていきたいので、良いアイデアがあれば助言いただきたい。

（委員）
・国が定めた 2050 年ゼロは、大変難しい目標であると理解しており、無理がかかっているようにも感じる。
・カーボンニュートラルについて、国が目標を見直すなど、そういった動きは全くないものか。

（事務局）
・国は野心的な目標として進めており、見直すといった情報は聞いていない。

（委員）
・お金を使っての対応は一定の限界がある。市民や事業者への教育等、ソフト的なものを充実し、有効に活用いただきたい。

（事務局）
・1人1人の行動変容につながる意識醸成は非常に重要であると考えており、市としても取り組んでいきたい。

（委員）
・環境に配慮したまちづくりに関連し、犀川沿いはよく整備されて綺麗だが、浅野川沿いは整備されておらず歩きにくいという印象がある。自転車利用も増えてきているためそういったところの整備を進めていただければ、環境に配慮したまちづくりが進むのではないか。

（事務局）
・歩行者や自転車に優しい空間の整備については、関係課と連携しながら進めてまいりたい。

（委員）
・伏見川沿線では、豪雨の際に泥が堆積し草が生い茂って川幅が狭くなってきていると感じる。大雨を見越してそういった整備をしていくことも重要ではないか。
・石川県は車がないと生活しにくい地域であるが、夏場など駐車場でアイドリングしている車両が多く見受けられるため、そういった車両がなくなれば、温室効果ガスの削減につながるのではないかと思う。そういった取組が広まるように市民努力を啓発してほしい。

（事務局）
・金沢市の特徴としては、冬場の暖房使用などによる家庭部門の排出が多いため、まずは家庭部門の削減に力を入れていきたい。車両のアイドリングなどについては、熱中症対策の観点もあるため、慎重に進めるが、あわせて徒歩での移動や公共交通機関の利用を促すなど、削減につながるよう啓発していきたい。

（会長）
・本質的な計画へ異論はなく、実効性を高めるための施策の中身に関する意見が多かったが、骨子案について承認としてよろしいか。

（異議なし）

（会長）
・今後、事務局にて最終調整を行いパブリックコメントを実施するが、最終案の確認については、会長一任としてよろしいか。

（異議なし）

（2）報告事項　・再生可能エネルギー導入量（2025年度実績）

（事務局）資料２をもとに説明

（委員）
・23 ページ、太陽光については設備容量が大きいにも関わらず、発電量は少ないが、この理由は何か。

（事務局）
・太陽光の場合、日中のみの稼働となり天候にも左右されるため、発電容量の大きさがそのまま発電量に反映されるものではない。一方で、廃棄物発電などは１日中稼働するため、発電量は大きくなる。

（委員）
・太陽光は発電量としては少ないということで理解した。発電容量と発電量、双方あった方が評価がしやすいので、今後も両方を資料に載せてほしい。

（２）報告事項　・「金沢市地球温暖化対策実行計画」の点検・評価

（事務局）資料３をもとに説明

（委員）
・事務局評価に異論はないが、仮に×や△であった際の対応を教えてほしい。

（事務局）
・進捗や評価が悪いものは、予算化が必要であれば予算化も考えるが、財政事情もあり必ず予算を確保できるわけではない。
・×となった場合は「今後の対応」欄でどこに力を入れるかを明確にし、改善策を検討し、お示ししたい。

（委員）
・改善策を考えるとのことで理解した。×だからといっていくら予算を費やしても達成・改善できない項目もあると思うため、そのような回答で良かった。
・今後はさらに高い目標が控えている中で、×や△といった項目が出てくるかもしれないため、その際はまた報告してほしい。

（事務局）
・進捗状況や目標をできるだけ数値化、見える化し正確な開示に努めていきたい。
改善できるところは前向きに取り組んでいきたいので、またご助言いただきたい。

（委員）
・個人的にはペロブスカイト太陽電池がもっと導入されていってほしいと思う。「守る金沢」より「攻める金沢」であって欲しいと感じている。費用対効果や諸問題もあるだろうが、環境だけでなく都市計画ベースで考えてほしい。
・都ホテルの跡地再開発等でペロブスカイトを導入すれば、街中が大きな発電所になる可能

性は残っているのではないかと感じている。毎回、恐縮だが引き続き検討していただきたい。

（事務局）
・現状はまだ費用的にも量的にも実装段階ではないため、まずは環境省の補助制度を活用して公共施設に導入できないか、検討をしていきたい。

（会長）
・「金沢市地球温暖化対策実行計画」の点検・評価について事務局案のとおりとしてよろしいか。

（異議なし）

３．閉会

（事務局）
・委員の皆様には長時間にわたり熱心にご協議いただき、誠に感謝申し上げる。
以上で、令和８年度第２回金沢市地球温暖化対策推進協議会を閉会する。